

ドラゴンファーム

両親は京都の出身ですが、私は富士宮産まれの富士宮育ち。幼きころから富士山に抱かれて育ちました。ほどほど田舎で、でも生活するには困らない、富士宮という場所が大好きでした。海外に対する憧れも持っていますが、日本の四季、文化、なにより料理のうまさには誇りを持っています。いろいろな職種を経験してきましたが、もともと、人の喜ぶ顔を見ることが好きで、サービス業に向いているんだらうなあと思っていた私は、自然に料理人という道を目指してきました。ちょうどそのころ、富士宮の父から、会社を退職して、農家のまねごとを始めた。



ドラゴンファームを
立ち上げた頃の父・純隆

と連絡がはいりました。東京を中心にフリーターでいろんな仕事をしながら遊びまわっていた自分が、半ば強制送還で富士宮に帰ってきたのはそんな折でした。

もともと化学メーカーの工場で研究員をしていた父。退職後に始めた趣味の家庭菜園は、無農薬、無化学肥料でのんびりと畑仕事に勤しんでいました。ところが、元会社の人たちが休みの日に畑に訪ねて来て、お土産に野菜をお渡ししていたところ、ありがたいことに口コミでどんどん広まり、いつの間にか商売になっていったというのが、ドラゴンファームの始まりです。

父の作った野菜を畑でつまみ食いするうちに、食材を調理して提供する料理人よりも、うまい野菜を育てる農家に面白みを感じ始めていました。本格的に農業という道を自分の仕事と考えたときに一番つまらないあとおもったのが、毎日畑と向き合って、人との交わりがないこと、次に、金銭面での不安がありました。農家体験型宿泊施設、という夢がおぼろげに見えてきました。

経験作り、人脈作り、資金作りのために地元の最大手の観光牧場に就職しました。多くのお客様と接するうち、食に関する知識、想いが、とても乏し

いことに気がきました。生きること、食べることは切っても切り離すことのできない関係なのに、自分たちの身体を作っているものは、毎日自分で選んで食べているものなのに、です。特に、私たちと同じ若い親世代にその傾向を感じました。自分で育てたものを、自分で収穫して、自分で料理して、食べる。そんな当たり前のことを、当たり前前にできるきっかけづくりをしたい。時には外食を楽しんでも、毎日のようにお惣菜を買ってくるような食生活に警鐘を鳴らしたい。今はそんな想いで畑仕事をしています。全ての家庭で、ベランダ菜園、プランター菜園がある光景を目指して。

(2014年12月記)



お客様とじゃがいも掘り

ドラゴンファーム 龍田 純忠

就農:平成26年4月 畑の場所:富士宮市 袖野、西山など
栽培面積:畑90a 田90a 栽培作物数:80種類
主力作物:お米、大根、里芋、長ネギなど
連絡先: www.facebook.com/dragonfarm.tatsuta

ドラゴンファーム 初代と二代目

